

キリストの使者としてのキリスト者

キリストを信じる者たちは、クリスチャンと呼ばれる前はキリストの「弟子」と呼ばれていた。メシアとしてのお働きをする過程で主イエスには大勢の弟子たちが従ったが、その多くの弟子の中から、主は特に12人を選び、彼らに「使徒」（アポストロス）という名をお与えになった（ルカ6:13）。

この「12人」（後にそのうちの一人ユダはイエスを裏切り、彼にかわってマティアが使徒に選ばれた／使徒1:26）は、のちに復活の証人となり、教会の基礎となったが、キリスト昇天後、もう一人、パウロが使徒として立てられた（使徒9:15）。パウロは、異邦人社会に対する福音宣教のために、特別に「選び出され、召された」使徒であった（ローマ1:1）。

使徒を意味する「アポストロス」は、アポステロー（遣わす、派遣する）から来た語で、「遣わされた者、代理人、大使」を意味する。当時の社会ではこの語は、王の命令や布告を王の代理・大使として、権威をもって諸民諸族に伝達するために立てられた使者を意味していた。

12使徒及び使徒パウロは、キリストの福音のメッセージをこの世に伝えるために立てられた、いわば神の全権大使であった。彼らは、聖霊の特別の導きのもとに、神の言葉が与えられ、それを権威をもって語り、人々に教え、導いて、教会を築いていくという、神的権威と使命が与えられて立てられた特別な意味での「使徒」であった。そういう意味での「使徒」は今は存在しない。

ところが聖書を注意深く読むと、この語（アポストロス）は必ずしも12使徒やパウロに限定して用いられていないことが分かる。キリストによって召され、キリストのために福音に仕える人々もまた、「広い意味で」アポストロスと呼ばれている（使徒14:4、第2コリント8:23、第1テサロニケ1:1、2:6参照）。主イエス・キリストご自身、このことをヨハネ福音書17章で強調された。すなわち、ご自身が父なる神に全権大使としてこの世に遣わされてお出でになったように、自分もまた、信じる者たちを、自分の使者としてこの世に遣わす、と言われた（17:6～19節）。

私たちキリスト者は、この世の罪から贖い出されてキリストのからだなる教会の一員とされただけでなく、キリストの福音の恵みの証人として、逆にこの世に送り出されているのである。そういう意味で、ひとりびとりがキリストの使者（アポストロス）として召されているのである。ここにキリスト者の栄光があり、また使命と責任がある。

全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ、と言われた主は（マタイ28:18～20）、福音宣教の使命を一部の人々にではなく、すべてのキリスト者に与えられたのである。主はまた、「あなた方の上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」とも言われた（使徒1:8）。

私たちにとって出て行くべき所、すなわち「全世界」とは家庭であり職場でありまた学校であろう。それゆえ、私たちが送り出されていく日々の生活のただ中で、キリストの使者として、言葉と生活と行ないを通して、キリストの福音を証ししていく、これが私たち一人一人に与えられた使命である。